



2026 年 10 月 15 日

各 位

会社名 株式会社東京衡機
代表者名 代表取締役社長 小塚 英一郎
(コード番号 7719 東証スタンダード)
問合せ先 取締役財務管掌 伊集院 功
(TEL. 050-3529-6502)

2027 年 2 月期第 2 四半期 (中間期) 連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2026 年 4 月 14 日に公表いたしました 2027 年 2 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2027 年 2 月期第 2 四半期 (中間期) 連結業績予想と実績値の差異 (2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	2,841	207	226	159	円 22 銭 29
実績値 (B)	2,452	132	149	76	円 10 銭 65
増減額 (B－A)	△389	△75	△77	△83	—
増減率 (%)	△13.7	△36.2	△34.1	△52.2	—
(ご参考) 前年同期 実績 (2026 年 2 月期第 2 四半期累計期間)	1,842	1	△13	△22	円 △3 銭 13

2. 差異の理由

当中間連結会計期間の実績は、売上高 2,452 百万円、営業利益 132 百万円、経常利益 149 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益 76 百万円となり、前回発表予想をそれぞれ 389 百万円、75 百万円、77 百万円、83 百万円下回りました。

主力の試験機事業では、オーダーメイド製品の受注が堅調に推移したものの、一部案件の納入・検収時期のずれ等により、売上計上が当初の見込みを下回りました。デジタル事業では、ASTOM R&D 社の受託開発売上が拡大し、前年同期の営業損失から営業利益に転換した一方、一部案件の売上計上時期のずれが当初予想との差異に影響しました。また、エンジニアリング事業では、主要顧客の設備投資動向等の影響により売上高が計画を下回り、売上構成の変化もあって営業損失を計上しました。

3. 通期連結業績予想について

2027 年 2 月期通期の連結業績予想につきましては、2026 年 4 月 14 日公表の予想値から変更しておりません。試験機事業及びデジタル事業では、上期に売上計上が遅れた案件について、下期の納入・検収の進捗を見込んでおります。また、エンジニアリング事業では、社会インフラ・電力関連分野への販路拡大、既存顧客への提案強化、原価・採算管理の徹底等により、業績の挽回に取り組んでおります。これらの取組みと下期の事業計画を総合的に勘案し、現時点では通期連結業績予想を据え置いております。

なお、今後の受注、納入・検収及び各事業の収益状況等により、業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

以上